

令和6年度 倉吉市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

令和7年5月

倉吉市（鳥取県）

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：令和2年4月～令和7年3月（5年0月）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

令和2年4月以降、第2期認定計画に基づき、「みんなで進める復興と福興～レトロとクールの融合により新たな活気とにぎわいの溢れるまち～」をテーマに、「①みんなで積極的に住みたく暮らしたいの賑わい再生を目指すまち」「②歴史的資源とポップカルチャーを活かし観光おもてなし力の向上を目指すまち」「③多種多様なビジネスが活性化し地域の商業活動の発展を目指すまち」の3つの基本方針のもと、中心市街地の活性化に向けた取組の更なる推進を図ってきた。

第2期計画の主要事業と進捗状況は以下のとおりである。

- ・小川家整備活用事業では、令和3年11月3日に庭園「環翠園」が一般公開され、新たな賑わいの創出が期待されたが、新型コロナウイルス感染予防のため受入を週末に限定するとともに事前予約制としており入館者数が伸びてきていない状況である。
- ・倉吉の歴史的資源を活用したまちなみ活性化事業では、小川家住宅及び高多家住宅の建物調査及び宿泊事業に向けての基本設計・実施設計を終え、改修工事に着手した。令和8年春のグランドオープンを目指し、オープン後を見定めた観光コンテンツの造成を検討する。
- ・第1期計画時に整備した施設を活用する打吹回廊活用事業及び円形劇場くらしフィギュアミュージアム活用事業では、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが実施出来なかったり、県外からの観光客はもとより、県内・市内からの来訪も途絶えたりと、思うような活用が出来なかった。令和5年5月からは新型コロナウイルス感染症が第5類感染症へ移行され、誘客イベント等の実施が出来るようになり、観光客は徐々に回復している状況にある。
- ・パークスクエア・バス通り沿い線地区暮らし・にぎわい再生事業では、新設する鳥取県立美術館に併設する各種交流イベント等に活用できるホールやギャラリーの整備が進み、令和7年3月に開館した。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(単位：人 基準日：毎年度1月31日)

（中心市街地 区域）	令和元年度 （計画前年度）	令和2年度 （1年目）	令和3年度 （2年目）	令和4年度 （3年目）	令和5年度 （4年目）	令和6年度 （最終年度）
人口	6,121	6,096	6,074	6,012	5,931	5,838
人口増減数	-85	-25	-22	-62	-81	-93
自然増減数	-67	-23	-34	-44	-82	-76
社会増減数	-18	-2	12	-18	1	-17
転入者数	407	149	163	127	191	147

【地価】

(単位：円/㎡ 基準日：毎年度1月1日)

	令和元年度 （計画前年度）	令和2年度 （1年目）	令和3年度 （2年目）	令和4年度 （3年目）	令和5年度 （4年目）	令和6年度 （最終年度）
商業地 JR 倉吉駅周辺 （倉吉 5-1）	64,300	62,800	61,000	59,400	58,000	56,900
商業地 まちかど ST 周辺	29,200	29,000	28,700	28,400	28,200	28,000

(倉吉 5-2)						
住宅地 JR 倉吉駅周辺 (倉吉-1)	45,000	44,500	44,200	44,000	43,700	43,500

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね予定通り進捗・完了した ②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

本市では、合計 65 事業を計画し、令和 6 年度までに完了あるいは実施中の事業が 53 事業、未着手の事業は 12 事業であり、事業の実施率は 81.5%となっており、概ね順調に進捗したと考えている。

その結果、社会増減は△177 人(H26～R1)⇒△24 人(R2～R6)と改善が見られた一方で、中心市街地における観光入込客数が目標値の約68%にとどまるなど、中心市街地活性化に資する各種施設整備やソフト事業を実施したものの、平成 28 年の鳥取県中部地震及び令和 2 年初旬から発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により、中止や延期となった事業もあり、当初期待していた成果を得ることができず、その対策が喫緊の課題となっている状況である。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

倉吉市中心市街地活性化協議会においては、第1期認定基本計画期間から継続する体制として、倉吉市をはじめ経済団体、事業者で構成する事務連絡会議を定例で開催し、基本計画掲載事業の進捗状況等について情報共有を図ると共に、推進における課題やその対応方策について検討を行い、中心市街地活性化の総合調整を図ってきた。

また、各事業の推進についてはタウンマネージャーを設置し、事業設計や調整、運営支援を行い、併せて新たな事業発掘を行い、協議へ参画するなどして、事業化に向けて事業主体のサポートを行ってきた。

基本計画の状況については、震災、新型コロナウイルス感染症感染拡大等の影響により当初期待していた成果を得ることができなかったが、進捗が遅れていた計画事業が遂行し始め、観光施設やイベント等への来街者数も徐々に回復しつつある中、活性化の目標として掲げている3指標については次期計画においても目標達成に向けた計画事業の進捗の管理が引き続き必要であると考えている。

今後は、移住・定住対策、外国人雇用対策強化、企業への各種補助金等の充実、人材バンクの設置、空き家・空き店舗・古民家等の調査・活用体制の構築、観光コンテンツの活用・プロモーション推進、市内回遊動線の整備、円形劇場活性化、交通利便性の向上についての取り組みが重要と考えており、引き続き官民一体となって中心市街地活性化に取り組む所存である。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

○倉吉市中心市街地活性化に関するアンケート調査

期間:令和6年7~8月実施

対象:市民約2,700人

回答:500人

現在の中心市街地の印象は、「治安が良い」という印象が強い。一方、令和元年度の調査と比較すると次の3項目は「思わない」の回答割合が増えており、不満が多い結果となった。「娯楽施設の充実」24.5%から43.8%に増加、「公共交通機関の便利」24.5%から42.8%に増加、「働く場所が充実」25.5%から36.6%に増加。

また今後、中心市街地を活性化するためには、「子育て支援施設の充実」、「安全・安心のまちづくり」「公共交通機関の利便性向上」が重要であるという意見が特に多く、便利であり、かつ、住む人の安全・安心が感じられる環境づくりの必要性が示された。

○倉吉市市民意識調査・報告書

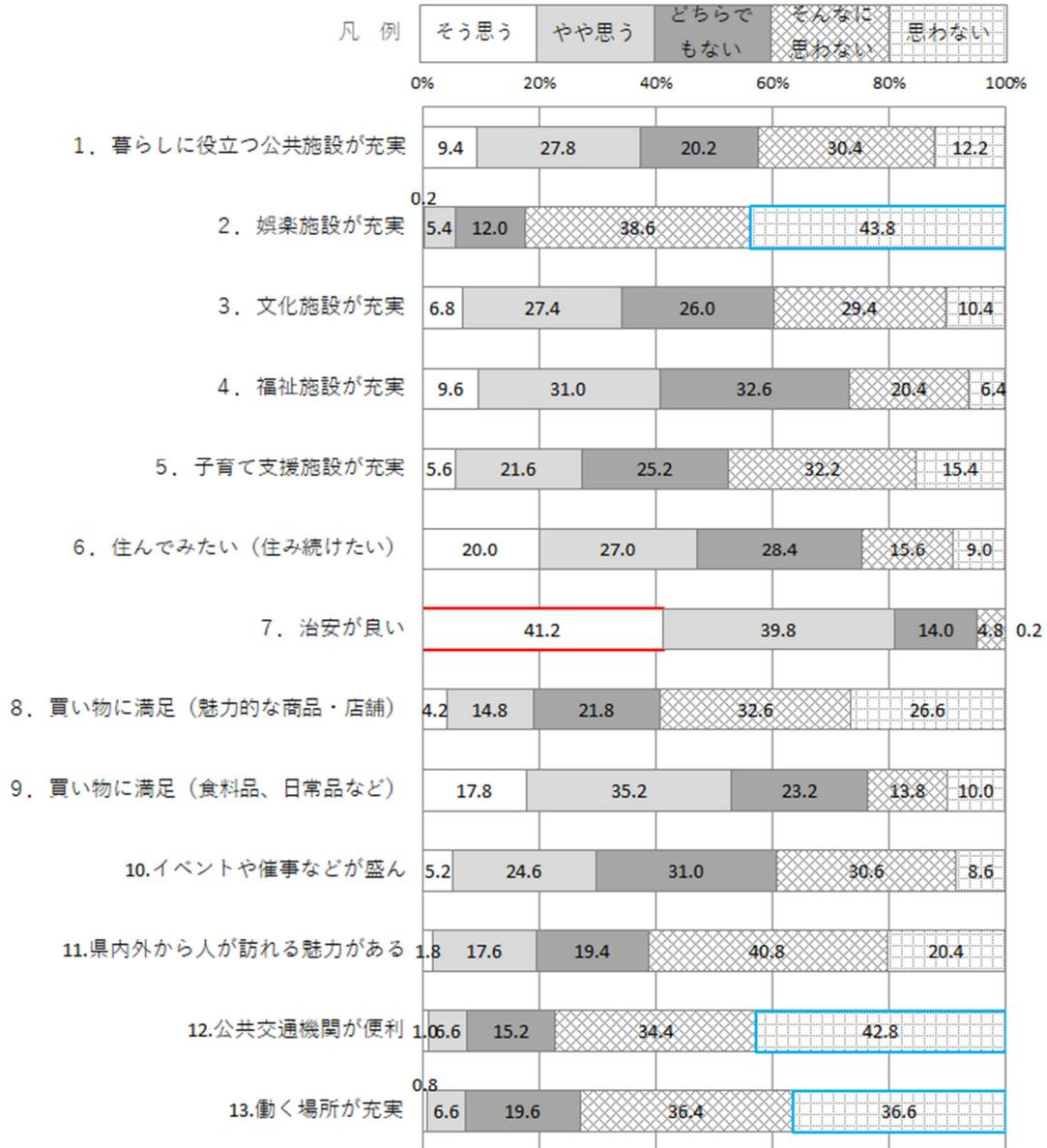
期間:令和5年4月~6月実施

対象:市民約2,500人

回答:957人

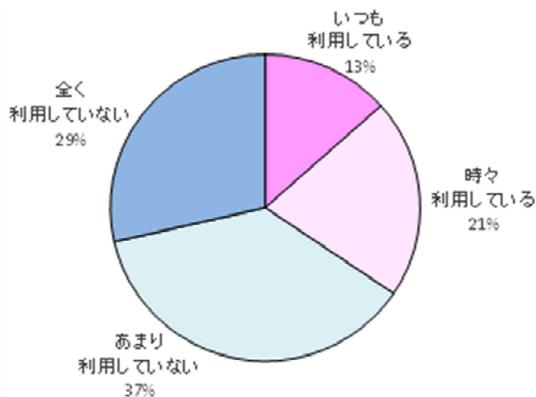
令和5年4月~6月に倉吉市民の生活実態や問題意識・市の政策についての満足度を把握し、今後のまちづくりの方針や施策の展開の参考にするための意識調査のなかで、倉吉駅を中心とした上井地区(倉吉駅周辺地区)や成徳・明倫地区(打吹地区)についての利用実態や満足度について調査をしたところ、駅周辺地区や打吹地区の「商店街の利用状況」は、34%の市民が定期的に利用している。一方で、「買い物のしやすさや魅力」については、令和元年度の調査結果と比較すると否定的な回答をした市民が66.9%から75%に増えている。

《現在の中心市街地の状況についての印象》

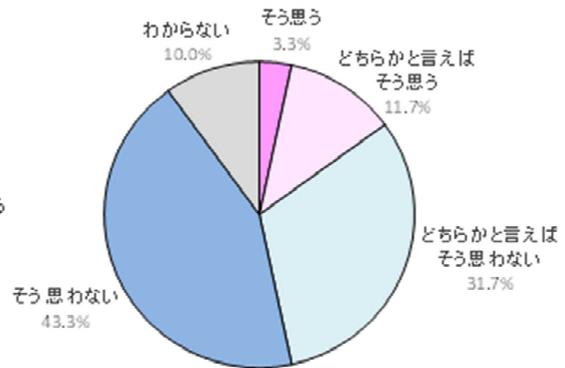


出典：令和6年度倉吉市中心市街地活性化に関するアンケート調査

《日頃から上井地区や成徳・明倫地区の商店街を利用しているか》



《上井地区や成徳・明倫地区の商店街は買い物しやすく魅力があるか》



出典：令和5（2023）年度倉吉市民意識調査・報告書

6. 今後の取組

本計画の取組による賑わい創出の効果を中心市街地全体へ波及させることが重要である。

また、市民アンケートからも、中心市街地活性化については肯定的な意見が多かったものの、現状への不満、今後に向けた課題等も提示されており、活性化に向けた一層の取組が必要である。

今後は、これまでの計画に基づいた取組みの成果を活かしながら、引き続き官民一体となって中心市街地内における魅力をさらに高め、「美術館のある新たなまちの市街地活性」をテーマに推進していく。

具体的には、令和7年から新たに取組みを始めた第3期中心市街地活性化基本計画に基づき、リノベーション居住推進事業、倉吉の歴史的資源を活用したまちなみ活性化事業、ポップカルチャーによる観光客等誘致促進事業、空き家活用サポートセンター運営事業等によって、人が周遊・滞在し、地域経済が着実に循環するまちとして、居心地がよく、歩いて楽しく、暮らしよい活気と賑わいのある中心市街地を目指す。

今後も効果を継続していくことが重要であることから、目標の達成状況に関する評価指標に基づく評価を行い、PDCA サイクルを継続する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
みんなで積極的に住みたく暮らしたくなる賑わい再生を目指すまち	中心市街地全体の人口の社会増減(人)	△177人 (H26-R1)	±0人 (R2-R7)	△35人	△24人	R7年1月	B1
歴史的資源とポップカルチャーを活かし観光おもてなし力の向上を目指すまち	中心市街地における観光入込客数(人)	383,300人 (H30)	421,400人 (R6)	413,780人	285,303人	R7年3月	C
多種多様なビジネスが活性化し地域の商業活動の発展を目指すまち	中心市街地における創業事業所数(件/年)	平均6.8件/年 (H27-H30)	平均10件/年 (R2-R7)	平均9件/年	平均10件/年 (R2-R7)	R7年3月	A

< 達成状況の分類 >

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、英字を小文字にして英数字に下線を引いて下さい。（例：a、b1、b2、c）

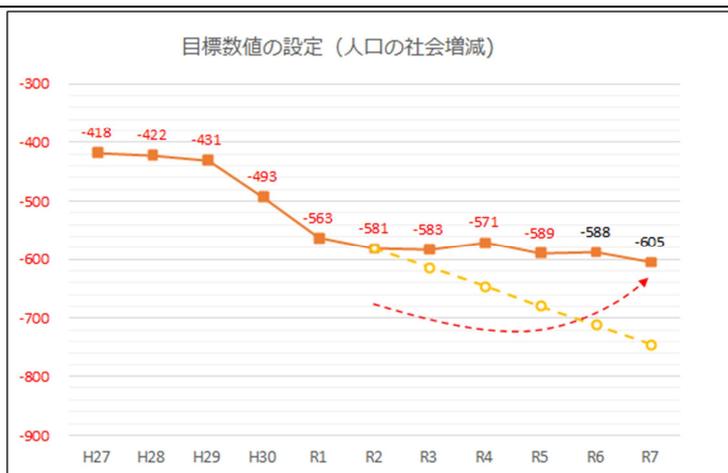
2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「中心市街地全体の人口の社会増減」(目標の達成状況【 B1 】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P53～P57 参照

●調査結果と分析

年	(単位)
H26-	△177人



R1	(基準年値)
R2- R3	△2人
-R4	10人
-R5	△8人
-R6	△7人
-R7	△24人
R2- R7	±0人 (目標値)

グラフ中、赤線：実績値 黄破線：計画策定時推計値

※調査方法：住民基本台帳を基に中心市街地の転入・転出を集計

※調査月：令和3年1月～令和7年1月

※調査主体：倉吉市

※調査対象：中心市街地内の転入・転出

〈分析内容〉

中心市街地全体の人口の社会減の抑制に向けた各事業については、「打吹回廊活用事業」による商店街イベント等が通常開催されるなど、まちの賑わいが戻りつつあり、人口の社会減は抑制された。また、移住相談や移住体験ツアーについても随時受付し、相談件数は増えている状況にある。この間の移住支援制度の拡充も移住希望者の移住への後押しとなり、社会増減の抑制の一助となっているものとする。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 打吹回廊活用事業（(株)打吹回廊）

事業実施期間	認定基本計画 令和2年度～令和6年度 【実施中】
事業概要	商店街活性化拠点施設を活用し各種集客イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置無し」
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】74人（9.98世帯/年×1.5人/世帯×5年） 【最新値】計0人 目標未達成 R2：0人 R3：0人 R4：0人 R5：0人 R6：0人
達成した（出来なかった）理由	令和5年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響によりこれまで中止せざるを得なかったイベント等の実施ができるようになったが、近隣地区の居住者増に繋がるようなイベントとはならなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	各種集客イベントは新型コロナウイルス感染症流行以前の状態に戻り、地域の魅力を発信できる状態に戻った。今後の中心市街地における居住環境の魅力向上に資するイベント実施に向けた下地ができた。
事業の今後について	今後も、継続的に実施していくとともに、新たな居住者の支援や生活サービスの充実につながる事業の実施により、地域の魅力向上につなげていく。

②. リノベーション居住推進事業（倉吉市）

事業実施期間	認定基本計画 令和2年度～令和6年度 【実施中】
事業概要	移住相談窓口の設置、移住初期経費等の一部助成

国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置無し」
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 50 人(6.75 世帯/年×1.5 人/世帯×5 年) 【最新値】 計 28 人 目標未達成 R2 : 5 人 R3 : 6 人 R4 : 6 人 R5:4 人 R6 : 7 人
達成した（出来なかった）理由	市内への移住相談の相談件数も徐々に増えており、各種リノベーション補助事業を利用する人も増えているが、中心市街地での件数は伸びず、目標達成とならなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	移住者の定住につながっており、地域内の活動において大きな力となっている。
事業の今後について	今後も、リノベーション居住推進を引き続き実施することで、中心市街地における移住者数が伸びてくると推察される。第3期基本計画においては新規事業として、空き家・空き店舗の利活用を促進する「空き家活用サポートセンター運営事業」の取り組みを実施することとしており、物件の確保と移住相談のワンストップ相談により事業の更なる促進を図る。

③. くらしよし居住環境整備事業（民間事業者）

事業実施期間	認定基本計画 令和2年度～令和6年度 【未】
事業概要	旧工場跡地を活用し、医食住に関わる施設の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置無し」
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 53 人 【最新値】 計 0 人 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	民間事業者の事業進捗が進まなかったため。
事業の今後について	今後も民間事業者との協議を続け、必要な支援を行っていく。

●今後の対策

中心市街地全体の人口の社会増減の累計は平成27年2月から令和2年1月までの5年間は△163人(年平均△32.6人)であったが、令和2年2月から令和7年1月までの5年間では△24人(年平均△4.8人)であった。人口の社会減は抑制されたが目標達成までには至らなかった。

これまでの取り組みによって中心市街地の人口の社会減を抑制できており、これらの取り組みを更に推し進めるべく、第3期基本計画では、空き家・空き店舗に関する多様な相談をワンストップで受け付けるため、分野横断的な専門家で構成する組織を官民連携で立ち上げることとしている。

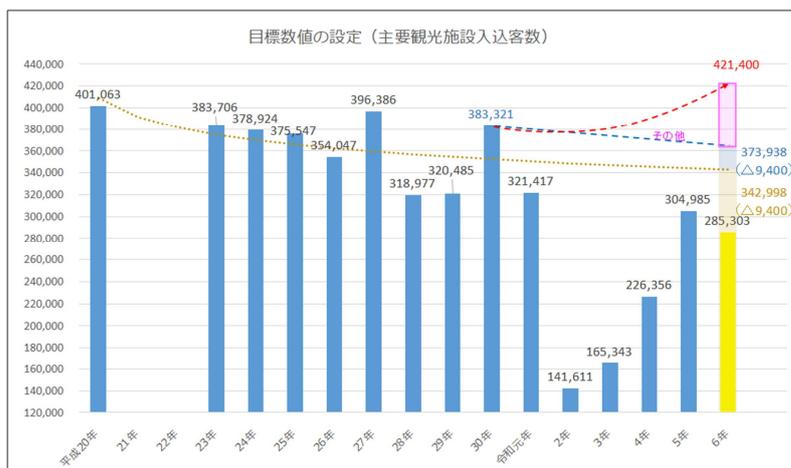
今後とも、リノベーション居住推進事業の継続的な実施及び、打吹回廊活用事業などの居住者の支援や生活サービスの充実につながる事業により地域住民の住環境の改善を図ることで、中心市街地における受入れ環境の整備を進め、移住を促進させたい。

(2) 「中心市街地における観光入込客数」(目標の達成状況【 C 】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P58～P62 参照

●調査結果と分析

年	(単位)
H30	383,300 人 (基準年値)



R2	141,611 人
R3	165,343 人
R4	226,356 人
R5	304,985 人
R6	285,303 人
R6	421,400 人 (目標値)

※調査方法：中心市街地内の6施設の観光入込客を集計

※調査月：令和2年4月～令和7年3月

※調査主体：倉吉市

※調査対象：中心市街地内の6施設の観光入込客数

〈分析内容〉

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和5年4月まで予定していた事業が満足に実施ができず、中心市街地における観光入込客数の増加に繋げることができなかった。

新型コロナウイルス感染症が令和5年5月より第5類感染症へ移行された後は、観光誘客イベント等の実施が通常通り出来るようになり、観光入込客数が徐々に伸びるものと思われたが、新型コロナウイルス感染症以前を超えるような観光客数を取り戻すには至っていない状況にある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 小川家整備活用事業（小川記念館財団）

事業実施期間	認定基本計画 令和2年度～令和6年度 【実施中】
事業概要	文化財を活用し、歴史的資源を展示する施設を整備する
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置無し」
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】23,000人/年 【最新値】771人 目標未達成 R2：0人 R3：1,130人 R4：1,222人 R5：877人 R6：771人
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症を受け、施設入場が週末のみ・事前予約制となったことで入場者数が絞られる結果となったこと、主要な観光地である白壁土蔵群から当該施設までの誘客策が思うような効果を上げることができなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	県文化財指定を受けた庭園等が一般公開され観光施設として機能し、観光客の滞在時間延長に寄与している。
事業の今後について	これまでの庭園の公開に加え、主屋を活用した宿泊施設の整備が進んでおり、引き続き活用と支援を続けることにより、観光入込客数の増加を図る。

②. 倉吉淀屋活用事業（倉吉市）

事業実施期間	認定基本計画 令和2年度～令和6年度 【実施中】
事業概要	修理復元を行った歴史的資源を活用した観光イベントの実施。
国の支援措置名及び	「国の支援措置無し」

び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 8,000 人増 【最新値】 7,269 人減 目標未達成 R1 : 17,361 人 R2 : 8,530 人 R3 : 8,051 人 R4 : 10,162 人 R5 : 12,831 人 R6 : 10,092 人
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症により観光客が激減した後、令和5年5月より第5類感染症へ移行された後は観光誘客イベント等の実施が通常通り出来るようになり、観光入込客数が徐々に伸びるものと思われたが、以前のような状況に戻すことができなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地における観光ルートとして定着しており、観光客の滞在時間の延長につながっている。
事業の今後について	感染予防対策をしっかりと整えた上で、各種イベント等において積極的に活用することで、更なる観光入込客の増加を図る。

③. 円形劇場くらしフィギュアミュージアム活用事業（(株)円形劇場）

事業実施期間	認定基本計画 令和2年度～令和6年度 【実施中】
事業概要	国内現存最古の円形校舎を活用し各種集客イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置無し」
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 6,700 人増 【最新値】 12,528 人減 目標未達成 R1 : 47,303 人、R2 : 27,637 人、R3 : 36,360 人、R4 : 35,457 人 R5 : 41,794 人 R6 : 34,775 人
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症により観光客が激減した後、令和5年5月より第5類感染症へ移行された後は観光誘客イベント等の実施が通常通り出来るようになり、観光入込客数が徐々に伸びるものと思われたが、以前のような状況に戻すことができなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地における観光ルートとして定着しており、観光客の滞在時間の延長につながっている。
事業の今後について	本施設は本市の重要な集客施設であり、引き続き整備主体と中心市街地活性化協議会と連携し、誘客を目指す。

●今後の対策

令和6年における中心市街地における観光入込客数は285,303人であった。小川家整備活用事業については、令和3年11月に公開を開始したが、新型コロナウイルス感染症対策のため事前予約制としており入館者数が伸びてきていない状況である。一方で、主屋を宿泊施設として整備する事業が進んでおり、懸案である滞在時間の延長とともに観光の付加価値の向上が誘客に繋がるものと期待しており、引き続き支援を行っていく。

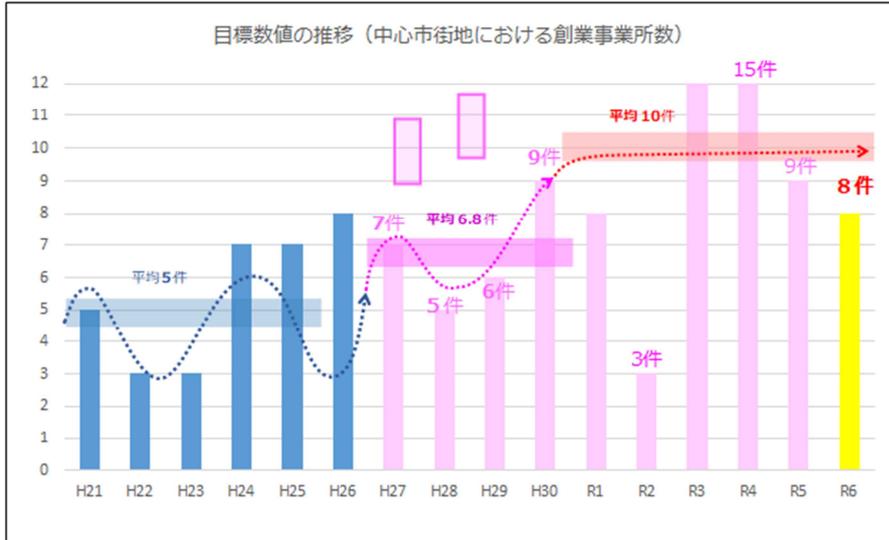
また、市内観光施設においては新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じ、安全安心な観光エリアであることを対外的に発信してきたこともあり、回復の兆しを見せ始めている。令和7年3月に開館した鳥取県立美術館と連携したイベント等を開催しつつ、既存の観光施設への回遊を促進させる取り組みを実施し、周遊型観光につなげる。

（3）「中心市街地における創業事業所数」（目標の達成状況【 A 】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P62～P66 参照

年	（単位）
H27	平均 6.8 件/年
H30	（基準年値）

●調査結果と分析



R2	平均 3 件/年 (3 件)
R3	平均 9 件/年 (15 件)
R4	平均 11 件/年 (15 件)
R5	平均 10.5 件/年 (9 件)
R6	平均 10 件/年 (8 件)
R2- R6	平均 10 件/年 (目標値)

※調査方法：倉吉商工会議所が把握している中心市街地内の創業事業所を集計

※調査月：令和2年4月～令和7年3月

※調査主体：倉吉商工会議所

※調査対象：中心市街地内の創業事業所

〈分析内容〉

中心市街地における創業事業所数の増加に向けた各事業については、新型コロナウイルス感染症の第5類感染症への移行に伴い、観光客が戻りつつある状況の中、新規創業希望者が一定数、見受けられた。新規創業の際には、リノベーション居住推進事業が積極的に活用されており、中心市街地での新規創業への促進効果があったと考える。一方で民間主体のハード整備については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、未だ進捗が遅れている。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 商店街づくり・地域商業活性化による事業所増（倉吉市）

事業実施期間	認定基本計画 令和2年度～令和6年度 【実施中】
事業概要	チャレンジショップ出店促進の取り組みによる新規創業者育成
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置無し」
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 3 件/年 【最新値】 0 件 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	倉吉市による制度周知のほか、倉吉商工会議所等へ起業相談をされる方に対し紹介等を行うことにより、利用の促進を促したが達成には至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	目標達成には至らなかったが、これまでこの事業によって中心市街地内にて起業した事業者が事業継続し、地元商店街へ新規加入することで地域活性化の原動力になっている。
事業の今後について	引き続き、この事業を継続し創業者支援を行うことにより、創業事業所数の増加につなげていく。

②. 倉吉銀座商店街振興組合活動拠点整備事業（倉吉銀座商店街振興組合）

事業実施期間	認定基本計画 令和2年度～令和6年度 【未】
--------	------------------------

事業概要	市内唯一の商店街組織における加盟店連携の活動拠点を整備する
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置無し」
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 2件 【最新値】 0件 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	コロナウイルス感染症の影響により、整備施設の運営形態が当初の予定に比べ縮小したことや入り込み観光客数が減少したことから出店希望者の創出につながらなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	計画開始時点と状況に変化はなかった。
事業の今後について	本事業は終了とする。今後は、整備する空き家活用サポートセンターと連携し、整備施設のみならず空き店舗を活用した新規出店希望者の創出を目指し、情報を収集していく。

③. 既存ストック活用起業推進地域連携事業（(株) 打吹回廊 倉吉銀座商店街振興組合）

事業実施期間	認定基本計画 令和2年度～令和6年度 【未】
事業概要	まちづくり会社と商店街組織の連携による空き店舗活用
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置無し」
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 2件 【最新値】 0件 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地において活用可能な空き店舗情報等の収集が思うように進まなかった中、利用を希望する新規出店希望者が少なかったこともあり、マッチングにつなげることができなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	計画開始時点と状況に変化はなかった。
事業の今後について	今後整備する空き家活用サポートセンターと連携し、引き続き、空き店舗と事業者とのマッチングを進め、中心市街地内における創業事業者数の増加につなげていく。

④. 倉吉駅周辺チャレンジショップ整備事業

（上井商工連盟、倉吉市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	認定基本計画 令和2年度～令和6年度 【実施中】
事業概要	倉吉駅周辺においてエリアの担い手となる若手創業者を育成していくための店舗を整備
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置無し」
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 3件 【最新値】 0件 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	新規出店希望者が少なかったこともあり、マッチングにつなげることができなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	令和3～4年度にかけてチャレンジショップに計2者が出店され、創業の支援を行うことができた。
事業の今後について	倉吉駅周辺に限定せず、引き続き連携して情報収集を行い、空き店舗の活用を推進することで、中心市街地内における創業事業者数の増加につなげていく。

⑤. リノベーション居住推進事業

（倉吉市）

事業実施期間	認定基本計画 平成 26 年度～令和 6 年度 【実施中】
事業概要	古民家や空き家等をリノベーションによって事務所、店舗、住宅等とし再生するため、移住相談窓口の設置、移住初期経費等の一部補助、家賃補助等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	「国の支援措置無し」
事業目標値・最新値及び進捗状況	【目標値】 2 件 【最新値】 5 件 目標達成
達成した（出来なかった）理由	事業のPRについて倉吉商工会議所とも連携し、相談内容に応じた提案をすることにより、活用が進んだものと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	本事業の活用により、経済的負担が軽減され、リノベーションの促進に繋がっている。また店舗へのリノベーションでは、経済的不安の軽減となり、創業の促進につながった。
事業の今後について	空き店舗改修補助は、新規創業者数増加の効果が期待できるため、今後とも制度を周知することで空き店舗のさらなる活用を促進する。

●今後の対策

令和2年度から令和6年度における創業事業所数は平均 10 件/年であった。新たに起業を志す者が増えてきている一方で、中心市街地で希望する賃貸可能な空き家・空き店舗が見つからず創業につながらない案件もあった。

これらの課題を受け、令和7年度に分野横断的な専門家で構成される空き家・空き店舗の利活用を推進する組織「空き家活用サポートセンター」を整備し、商店街組織、商工連盟、NPO 法人など各団体と連携することによって、空き家・空き店舗の状況把握を進めるとともに、起業を志す者の支援体制のブラッシュアップをすることにより、中心市街地における創業数の増を目指す。